

# 音楽デザイン専修における地域貢献活動の実績と課題

Achievements and Challenges of Local Contribution Activities in Music Design Course

新名俊樹

Toshiki SHIMMYO

## Abstract

The Music Design Course aims to train students to become the next generation of multi-talented creators and composers. To achieve this objective, practical work experience with local businesses and communities is essential. Practical experience helps students develop new modes of expression and increases the value of their work. The accumulation of successful experiences also enriches the students' skill set.

Local Contribution Activities are vital in maintaining strong relationships between the faculty and local businesses and communities. Although all students are not able to take part in these activities because composing music requires a level of musical proficiency, through many years of practical work experience many of our students have produced original music pieces.

When a local business requests an original piece of music, careful consideration must be taken. One of the biggest challenges for our faculty is to decide whether the work experience would be effective for the students' learning, or whether it should be done for free.

This article presents the achievements of 'Local Contribution Activities in the Music Design Course'.

**Keywords:** *Music Design Course, Music Production, Local Contribution Activities*

## 1. はじめに

音楽デザイン専修は2005年4月に作陽短期大学音楽科（現 作陽音楽短期大学音楽学科）へ、2007年4月にくらしき作陽大学音楽学部音楽学科へ設置され、2016年4月に12期生を迎えた。本専修は次世代のマルチクリエータ育成を目標にしている。そのためには自己努力によるスキルアップは当然重要であるが、それ以上に「他者とのコラボレーション」が重要であり、そこから新しい表現方法や付加価値が生まれると考えている。同時に学習成果が「人に喜ばれる（=結果的に評価される）スキルアップ」かつ「社会に役立つ（=結果的に社会還元される）スキルアップ」の結果であることが望ましい。なぜならば学生時代にこそ、クリエイトすることによって他者から感謝され、逆にそのキッカケを与えてくれた他者に感謝するという大切な経験をしてほしいと願うからである<sup>1~2</sup>。

クリエイトの源泉は「生きていることの証」、つまり「この世に存在していることの証」を欲する強い気持ちである。当然そこに能動的感情が得られるかどうかもその後の制作意欲に大きく関与する。小さな成功体験の積み重ねが学生を育てる。少しずつではあるが地元企業や地域社会とのコラボレー

ションから生み出されたオリジナル作品がストックされてきた。ここにそれらの実績を報告する。

## 2. 地域貢献活動の内容

### 2-1. 概要

地元企業や団体への楽曲提供が主である。特に株式会社倉敷ケーブルテレビとの連携は9年目になり、多くの学生に作品発表の場、すなわち成長の機会を提供していただいている。もともと音楽とテレビ番組との親和性は高く、なかでもオリジナル楽曲をコンスタントに提供できる関係にあることは双方にとってメリットが多い。音楽はどういったものとでも融合できることができが強みであり、コモディティ化するコンテンツに付加価値を与え、お互いをリブランディングしていくことも可能である<sup>3</sup>。こうしたパートナーシップを作り、長期に亘ってその関係性を継続していくためにも、こうした地域貢献活動は有意義である。

### 2-2. 詳細

表1に「楽曲提供一覧」を示した。その中から特徴的なものを2つ解説する。

先ず「KCT ワイド<sup>4</sup>」は、いわゆる「夕方のローカルワイド番組」であり、玉島地区を除く倉敷市(倉敷・児島・水島・真備・船穂地区)と総社市と玉野市をメインエリアとする日々のニュースを伝える情報番組である。現在は毎週月曜日から木曜日の16:00からの25分間番組になり、深夜1時まで再放送されている。

作曲者(=楽曲制作)ならびに楽曲コンセプトの選定に関しては筆者に一任されている。具体的には、音楽デザイン専修における2年間の学習成果を毎年1月下旬に開催しているオリジナルミュージックビデオ作品発表会「ミライヘノトビラ」で発表しているが、その指導の過程で学生個々の楽曲制作スキルをみており、その中から優れていると思われる新3年生を事前に選出しておき、発表会終了後に改めてこの主旨を説明し賛同してくれた者に任命している。制作期間は2月中旬から3月中旬にかけての約一ヶ月間であるが、作曲に関しては後述する細かい指定があるため何度も手直しが必要になり、納期の決まった公式な仕事として請け負うことの難しさを経験することになる。楽曲名は筆者が作曲者から連想するキーワードをもとに先に名付けて提示しており、手直しを繰り返しながらそのイメージに見合う楽曲に仕上げている。この楽曲名先行の作曲手順は重要な要素であり、継続感ならびに統一感を作るものである。

作曲に関する細かい指定については、番組改変に伴い2012年より以下の条件を課している。

- 1) イントロは10秒間のトピックスニュースが3本流れるため30秒間とする。
- 2) 31秒から一番盛り上がるサビが始まり、番組タイトルCGが10秒間流れたところでアナウンサーが「こんばんは」としゃべりだし、そのまま音量が下げられBGMとして使われる。
- 3) 1コーラスは1分40秒間程度とし、そのあたりで提供企業のテロップが出てCMに入る。
- 4) 大きなニュースなどが入った場合、BGMが必要なことがあるので、ブリッジをはさみ1コーラスのコピーで良いのでつないで合計4分間程度の尺を確保する。
- 6) 毎日繰り返されるテーマ曲なので「シンプルながら飽きのこないもの」が理想的であり、明るめの曲が好まれる。

公式な仕事を初めて請け負う学生にとってはかなり厳しい条件である。まずはイントロの30秒間から拍子と小節数とテンポを逆算し、その上で10秒間ずつの区切りを印象付けるモチーフを考えなければならない。そして31秒から一番盛り上がるサビがくるので、前後のバランスを考えながら、続くAメロを考えることになる。最終的なミキシングとも関連するが、家庭で視聴されるテレビの音量はかなり絞った状態を想定し、なおかつ小型の液晶テレビ等では低音域の音声は再生され難いので、中音域の遣り繰りが重要になり、結果としてサンプリング音源の音色選びと音数の思い切った割り切りも必要になってくる。このテーマ曲が夕方のニュースが始まったという合図にもなるので、抜

けの良い音色を使いながらも、日々聞いて飽きのこないものを創作することは、正に目に見えない課題を解決する行為そのものであり、持てる知識を総動員して試行錯誤することになる。

また図1のように、作曲者は毎年4月1週目に生出演させていただいている。この経験も大きな財産となっており、学生の成長を頼もしく思う瞬間である。



図1 「KCT ワイド生出演」

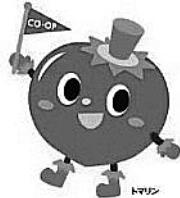
次に「コープはれとまとのうた<sup>5</sup>」は「おかやまコープ再建40周年事業」の一環として、音楽デザイン専修生による音楽貢献サークル「aglien(アグリアン)」名義で作詞・作曲・編曲・音源制作・歌唱録音・ミキシングをしたものである。「KCT ワイド」との大きな違いは複数人で分業したことであり、今後の地域貢献活動の一つの形態として実験的に行ったものである。

株式会社コープファームおかやまで生産されるトマト「コープはれとまと」は瀬戸内市牛窓で採れる「おかやま育ち」「こだわり育ち」をウリにした新商品で、この周知のためにオリジナル曲を作り歌詞にもそれらのキーワードを入れることが条件であった。最終的な歌詞は図2のとおりである。

当初の打ち合わせでは楽曲制作に関してはこちらに任せることであったため、女子小・中学生に人気の VOCALOID™ とよばれる音声合成ソフトを使い、マスコットキャラクターの「トマリン」が歌うという設定の現代風の楽曲制作をしていたが、先方の上層部から理解が得られず、全面的に古くからある手法を使ったコマーシャルメッセージソングに作り直すことになった。先方の要望に合わせて一から作り直すことは当然あり得ることだが、提案したものとは大きく方向性が変わり、学生たちにとっては貴重な苦い経験になったことであろう。

こうした経験は「他者とのコラボレーション」だからこそ得られるものである。予定通りにいかないことが正に教材になり、その新たな課題をどう乗り越えるかが最良の学習経験になることは間違いない。最終的にはこの楽曲に踊りの振り付けも付き、コープのイベントで歌われたり YouTube 等で発表されたりと、新商品の PR に大きく貢献できた。

# コープはれとまとのうた



1 トマトマトマトマト  
みんな大好き  
晴れの国からやってきたよ  
トマトマトマトマト  
まんまるまっ赤  
新鮮トマト 届けるよ

みんなのこころがはずむ  
みんなのコープはれとまと

※ さあ トマト食べよう  
トマト食べればみんなハッピー！  
さあ トマト食べよう  
おかやま コープはれとまと

2 トマトマトマトマト  
みんな食べるよ  
おかやま育ち こだわり育ち  
トマトマトマトマト  
まんまるまっ赤  
新鮮トマト おいしいよ

みんなの笑顔をつなぐ  
みんなのコープはれとまと

※ くり返し



図2 「コープはれとまとのうた」

表1 「楽曲提供一覧」

提供楽曲およびコンテンツ名	発表時期	発表先
「KCT ワイド」2008年度オープニング曲"華やぐ街-倉敷-" <sup>*</sup>	2008.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「KCT ワイド」2009年度オープニング曲"優しい街-倉敷-" <sup>*</sup>	2009.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「KCT ワイド」2010年度オープニング曲"輝く街-倉敷-" <sup>*</sup>	2010.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「KCT ワイド」2011年度オープニング曲"育む街-倉敷-" <sup>*</sup>	2011.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「KCT ワイド」2012年度オープニング曲"安らぐ街-倉敷-" <sup>*</sup>	2012.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「KCT ワイド」2013年度オープニング曲"色づく街-倉敷-" <sup>*</sup>	2013.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「KCT ワイド」2014年度オープニング曲"夢見る街-倉敷-" <sup>*</sup>	2014.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「KCT ワイド」2015年度オープニング曲"煌めく街-倉敷-" <sup>*</sup>	2015.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「KCT ワイド」2016年度オープニング曲"晴れる街-倉敷-" <sup>*</sup>	2016.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「立石おじさん おかやまの昔話」テーマ曲およびBGM	2010.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「つながる笑店街@どっと・混む」テーマ曲およびBGM	2010.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「キャンパス☆サーチ」エンディング曲"Maybe Someday"	2011.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「吉備草創」テーマ曲"吉備草創"	2011.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「おかげくら」オープニング曲"Aujourd'hui"	2012.04	(株)倉敷ケーブルテレビ ・oni ビジョン
「キャンパス☆サーチ」テーマ曲"Rainbow Road"	2015.04	(株)倉敷ケーブルテレビ
「高梁川マルシェ」テーマ曲"Roter Ziegel", "River"	2012.09	(株)倉敷アイビースクエア
「スーパー・マーケットタマヤ」テーマ曲"タマヤフレンド" (玉野市立玉野商業高等学校共同企画)	2013.03	(株)玉屋
「倉敷アイビースクエア」40周年記念曲 "つ・む・ぐ"	2013.10	(株)倉敷アイビースクエア
「第25回 国民文化祭・おかやま 2010」コマーシャル・プロモーションコンテンツ用BGM(受託研究)	2009.03	おかやまコンテンツネットワーク FORUM および公式ウェブサイト
「たい焼たい夢」プロモーションおよびコマーシャルコンテンツ用イメージ曲(受託研究)	2009.04	(株)オーバン
「おかやまグリーンバイオ・プロジェクト」コマーシャル・プロモーションコンテンツ用BGM(受託研究)	2010.03	おかやまグリーンバイオ・プロジェクトコマーシャル・プロモーションコンテンツ制作発表会
「コープはれとまとのうた」(受託研究)	2014.06	生活協同組合おかやまコープおよび公式ウェブサイト

\*同曲の秋冬ヴァージョンも提供

### 3. 地域貢献活動の課題

「copeはれとまとのうた」では実験的にチームで取り組んだが、外部に提供する楽曲制作には一定以上のスキルを要するため、任せられる学生は必然的に限定されてくる。コンピュータを使った音楽制作に関しては大学入学後から学び始める者も多く、基礎的なスキルアップに少なくとも2年間は必要なことから対象が3年生以上になるので、残念ながら短大生にはなかなかチャンスを与えてあげられない。また授業の一環として全員にデモ曲を制作させ、コンペティションを行い、優秀者を選出するのも一つの方法であるが、仲間と一緒に音楽制作を一から学ぶことを基本方針としている本専修には馴染み難い。

片や「学生にオリジナル楽曲を提供してほしい」という依頼は有難いのだが、慎重に対応している。暗に経費削減から無償提供の理由付けに学生を使うというケースもあり、「他者とのコラボレーション」の経験を積む以前に安売りをしてしまうとその価値を自ら下げてしまう。更には音楽制作を職業としている卒業生の仕事を奪うことにもなりかねないため、筆者が間に入り、場合によっては内容や納期を考慮して業者や卒業生を紹介している。

インターンシップにも言えることだが、無償か有償かの違いだけではなく、学生の学習の場としてふさわしく、スキルアップに繋がる内容かどうかを吟味することが重要であり、その線引きの基準をどこにどうやって置くかが指導教員としての大きな課題である。

### 4. 今後の展望

来年度は倉敷ケーブルテレビと連携10年目を迎える「KCTワイド」のテーマ曲は合計10曲20ヴァージョンができる。是非とも何かの形でまとめ、地元倉敷の付加価値となるコンテンツとしてリリースしたい。また学生に学びの場を提供してくださる企業や団体との接点を増やし、新たな分野ともコラボレーションしたい。

### 参考文献およびURL

- 1) 新名俊樹：音楽デザインにおけるコンピュータ音楽制作についての指導方法（2009年）,くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学研究紀要, 第42巻第2号, 221~235ページ
- 2) 新名俊樹：音楽デザイン専修におけるインターンシップの方法－くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学の事例－（2011年）,くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学研究紀要, 第44巻第2号, 65~75ページ
- 3) 山口哲一：新時代ミュージックビジネス最終講義（2015年）,RittorMusic,120?125ページ
- 4) 倉敷ケーブルテレビ KCT コミちゃん/KCTワイド <http://tv.kct.jp/>
- 5) コープはれとまとのうた <https://www.youtube.com/watch?v=0OjH18xfjss>